



わかやま

No.48

和歌山県精神保健福祉センター 2011年 8月

「医療と教育の側面から精神障害を考える」

和歌山県立医科大学 理事長・学長 板倉 徹

和歌山県立医科大学附属病院では40床の神経精神科病棟を有しています。ここでは医師や看護師をはじめとする医療スタッフによる、精神疾患を持つ患者さんの入院治療が行われています。もちろん他の疾患でも重要となる患者さんの社会復帰に向けた支援も重点的に行っています。患者さんの社会復帰にとって障害となっているのは何か、病状、家庭環境や社会情勢などを分析し社会復帰へ向けた支援も、医師看護師のみならず全医療スタッフがチームとして取り組んでいます。ここではいつも患者さんの立場に立った医療と支援を念頭に置いています。

本大学病院では医学生や看護学生の病棟実習を中心とした教育にも力を注いでいます。将来医療スタッフとして、障害者の方とどのように向き合うかを、グループ討論を重ねながら考えるように指導しています。ここでは彼ら学生が精神障害者の方々の支援と自立について、十分な知識と理解を得るようなプログラムが編成されています。本学の教育ではcure(治療)のみならずcareケアマインド教育を特に重視しています。病気の治療のみならず、患者さんの心をいかにケアできるかを重要視しています。したがって実習ではいつもケアマインドという視点から精神障害を考え、どのような治療や支援が必要であるかを常に考えるように指導しています。将来の医療を担う看護学生や医学生の疾患に対する適切な理解とケアマインドの視点が、精神障害の方々への支援の一步であるとも考えています。

医療と教育という2つの重要な視点から、精神障害の方々への支援を、大学全体で行い、彼らの社会復帰の促進に貢献することが大学に課せられた使命です。

もくじ

- P1 「医療と教育の側面から精神障害を考える」
- P2 シリーズセンター長だより ⑥
- P3 ひきこもり支援サークル よりみち/ひきこもり青年の方の居場所
ひきこもり青年をもつ家族の方の交流会および学習会
- P4 精神保健福祉センターの教室・講座案内/「こころの絵」募集
- P5 和歌山メンタルヘルスニュース
- P6 はーとふるネットワーク「紀の川病院 松村 海瑠さん」
研修等のお知らせ

和歌山県精神保健福祉センター

〒640-8319 和歌山市手平二丁目1番2号 県民交流プラザ“和歌山ビッグ愛”2階

☎ (073) 435-5194 FAX (073) 435-5193

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/040400/050301/>

シリーズ センター長たより ⑥

和歌山県精神保健福祉センター所長 小野善郎

たまスーパー駅長



6月4日から5日にかけて岡山市で開催された第7回日本司法精神医学会大会の公開シンポジウム「子ども虐待と法的問題：子どもの権利擁護、社会的養護、親権をめぐる課題」にお招きいただき、「虐待が与える子どもの育ちと発達への影響」についてお話し、地元の精神科医、弁護士、児童福祉関係者と意見交換をしてきました。この問題に対する岡山県の皆さんの熱意をひしひしと感じるシンポジウムでした。

実は、私は岡山県知事から「児童虐待防止等専門サポートチーム委員」を委嘱されているのですが、岡山市に行ったのは今回が初めてでした。「わかやま」と「おかやま」は発音が似ていて間違えられることが多いので、常に気になる県ではあったのですが、距離的にも少し離れているので実際の関連はこれまで少なか



ったように思います。でも、現在は和歌山県と岡山県はととても深い関係にあります。それは和歌山電鐵貴志駅のたまスーパー駅長がつなぐ両県の絆です。

たまは今や世界的に有名になった三毛猫（12歳メス）ですが、和歌山電鐵では「スーパー駅長」、「常務執行役員」の肩書きを持ち、和歌山県からも「和歌山県勲功爵（わかやまでナイト）」の称号を与えられています。廃線の危機にあった貴志川線を岡山県の両備グループが引き継いだ時に、小嶋光信

社長の発案でたまは貴志駅の駅長に任命され、貴志川線の存続に大きく貢献していることは皆さんも既にご承知のことと思いますが、今やたまスーパー駅長のパワーは貴志川線だけでなく岡山県にまで及び、岡山電気軌道にも「たま電車」が走るようになり、両備バスは「たまバス」を走らせるなど、岡山県でもたまは大人気です。人の心をつかむアイデアは地域振興にはとても大切なことを和歌山県と岡山県はたまスーパー駅長から学んでいるように思います。センター長としては、和歌山県のこころの健康の普及にも一役買ってもらいたいなと密かに思っているところです。



ひきこもり支援サークル よしみち DoingよりBeing

かつらぎ町でひきこもりや不登校で悩んでいる若者やその家族の方を支援するためのボランティア団体として平成20年4月28日、6名の仲間とともに多くの方々の支援をいただき「よしみち」を発足させました。名前のおり寄り道しながらゆっくりと自分ペースで自分の道を歩いて行くことを目指す活動を進めています。時間の経過は早く、発足から3年と4か月を経過し、その間家族の方、支援を申し出てくださいる方、自分自身の経験を基に若者のサポートしてくれる方、いろんな方面から支援の輪が広がってきています。周囲の皆様の協力とご支援をお願いするとともに、未来のある若者に少しでも元気と勇気をもってもらえる居場所になることを目指しています。

私たちの思いはいつも「DoingよりBeing 今生きていることが素晴らしい」です。今悩んでいる若者たちが自分の夢と希望に向かって少しでも進んでいけるようなサポートができればと考えています。



(居場所でサポーターさんとカレーを作りました)

ひきこもり青年の方の居場所

毎月第1木曜日の午後1時～3時

場所 大谷会館（かつらぎ町大字大谷868番地の1）

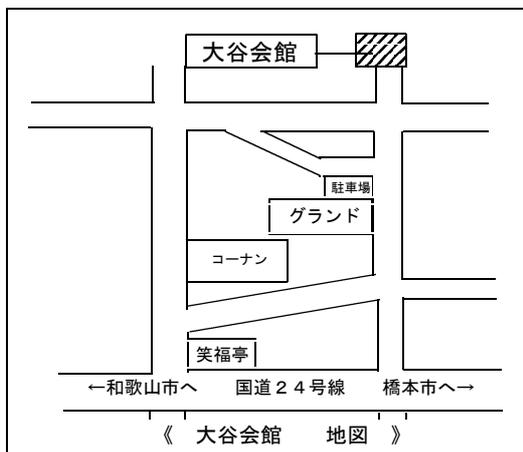
家庭以外で楽しめる場所を！ということで、つどえる場所を作りました。今は、ゲームをしたり、カレー作り、パン作りなどをしてゆっくりと楽しく過ごしています。

ひきこもり青年をもつ家族の方の交流会および学習会

毎月 第1木曜日 午後7時から9時

場所 大谷会館

体験者の話を聞いたり、専門家を招いての学習をすることで、家族としてどうかかわっていいかを学んでいます。ひきこもりは家族だけで解決することはむずかしいです。まずは家族が集まって自由に話せること、失敗談も成功談もみんなの宝物です。



よしみちサポーター募集！！

みなさんのできる範囲での応援団
「よしみちサポーター」を募集しています。

連絡・問い合わせ先 会長 林 健一
(090-3274-2663)

精神保健福祉センターの教室・講座のご案内

★ひきこもり家族教室

家族教室は、ひきこもりについて学んでいただくことで、家族が不安や孤立感をやわらげ、回復につなげる力を得ていただくことを目的としています。

場 所：湯浅保健所
内 容

	開催時間	内 容
第1回	8月18日(木) 13:30~15:30	『ひきこもりの理解』 精神保健福祉センター所長 精神科医 小野 善郎
第2回	9月22日(木) 13:30~15:30	『社会参加への一歩に向けて』 南紀若者サポートステーション訪問支援員 南 芳樹 氏 他
第3回	10月27日(木) 13:30~15:30	『さまざまなステップ(家族のつどい)』 精神保健福祉センター 職 員

場 所：橋本保健所
内 容

	開催時間	内 容
第1回	9月28日(木) 14:00~16:00	『相手も自分も楽になるコミュニケーション法』 高野山大学文学部 臨床心理士 森崎 雅好 氏
第2回	11月2日(木) 14:00~16:00	『ひきこもりの理解と支援』 ひきこもり支援サークルよりみち 会長 林 健一 氏 精神保健福祉センター 所長 小野 善郎
第3回	1月13日(金) 14:00~16:00	『さまざまなステップ(家族のつどい)』 和歌山県精神保健福祉センター 職 員

対 象：県内にお住まいで、ひきこもりの問題を抱える方のご家族

★こころの健康講座

生きづらさに効く
生きるコツ

講 師：月乃 光司 氏(こわれ者の祭典代表) & YOPPY(ギター)
日 時：平成23年9月24日(土) 13:30~15:30(※受付13:10~)
場 所：和歌山県勤労福祉会館プラザホープ 多目的室(2階)

ほっとする 笑顔つながる こころの絵 募集

1 趣旨

見る人の心をほっとさせたり、笑顔にさせるような絵を描いてもらい、こころの健康の保持増進を見つめ直す機会を提供します。

2 主催 和歌山県精神保健福祉センター
和歌山県精神保健福祉協会

3 募集内容

(1) 対象者

県内に在住、または通勤・通学している方

(2) 規格

- ① 見る人の心をあたためる絵であれば内容は自由です。
- ② 応募は自作の未発表の作品で、お一人1点とします。

③ 応募用紙サイズ：最小：はがき大(100mm×148mm)
最大：画用紙四つ切り大

(382mm×542mm)

(3) 募集期間 平成23年8月3日(水)~9月22日(木)

(4) 応募方法

作品の裏に、氏名(ふりがな)、性別、年齢(学年)、住所、学校名(勤務先)、電話番号を明記した用紙を貼った上、下記の『ほっとする 笑顔つながる こころの絵』募集係宛てにご応募ください。

『ほっとする 笑顔つながる こころの絵』募集係

受付先 〒640-8319 和歌山市手平2丁目1-2
ビッグ愛2階(精神保健福祉センター内)

県内の精神保健福祉関連の最新情報と当センターの活動をお知らせします。



○精神保健福祉関連新任者研修

6月21日(火)、22(水)に、精神保健福祉業務に従事して概ね5年以内の新任者 46名を対象に、ビッグ愛にて開催しました。研修内容は、「精神疾患と精神障害の理解」「精神障害者と人権」「障害福祉サービスの提供について」「相談の受け方の実際」でした。参加者からは、「医師等の専門家に任せきりになるのではなく、自分のできることを学んでいく必要があると感じた」「様々な分野の知識を得ることができた貴重な機会だった」などの感想が寄せられました。

○自殺対策基礎研修(傾聴研修)

7月6日(水)に、市町村・相談支援事業所その他の関係機関等における相談業務従事者34名を対象に、ビッグ愛にて開催しました。ヘルスサポートセンター縁代表の池田佑佳子氏に、「心を観て、心を聴く コミュニケーション」というテーマで、自殺を考えている人への理解や援助に関する講演及びグループワークを実施しました。参加者からは、「コーチングやアサーティブについての知識を得ることができました」「気持ちを言葉で伝える大切さを実感しました」などの感想が寄せられました。

○こころのレスキュー隊隊員養成基礎研修

8月3日(水)に、主に教育関係者や精神保健福祉に携わる者43名を対象に、ビッグ愛にて開催しました。内容は、前半「こころのレスキュー隊事業説明-学校における危機対応の実際」と、後半「こ



ころのケア-二次障害とストレスマネジメント」でした。後半ではペアになって取り組むリラクゼーション方法の実践も行い、参加者からは、「タッチングや弛緩法等、現場で使えるストレス対処法を教えてもらって大変参考になりました」等の感想が寄せられました。

○精神保健福祉協会「こころの集い」を開催しました

7月15日、精神保健福祉協会の定期総会のあと、「こころの集い」を開催しました。今年、「精神」という映画の上映会を行いました。この映画は海外の映画祭で高い評価を得ていますが、一見地味なドキュメンタリー映画に皆さんが関心を持ってくれるだろうかという担当者の心配をよそに、多くの方に参加していただきました。寄せられた感想の中に「健康な人も精神病の人も誰にでも欠陥はあると言っていたが、自分の子どもも同じだなあと感じた。近所の人と普通に会話するし、家族との会話も十二分にするし、親戚の子どもとも仲良く買い物に行くし、毎日薬を飲む。毎日ゴミ出しをし、花に水やり、風呂清掃、室内の清掃をやる。親の目から見ても病気じゃないみたいと思う」とありました。

これまでは人権に配慮して必ずかかっていたモザイクをはずした映像から見えてきた精神病患者といわれる人たちは、普通に仲間と会話をし、詩や歌を詠み、涙あり笑いありの日常を送る人たちでした。彼らの言う「不安」や「死にたい」や「しんどい」気持ちは誰もがこの社会で感じている気持ちとつながっていることにあらためて気づかされた映画でした。

精神保健福祉の第一線で働く関係スタッフの紹介コーナーです。
今回は、紀の川病院 PSW 松村 海瑠さんです。



はーとふるネットワーク



ー 紀の川病院に勤務されてどのくらいになりますか？

4年目です。

ー 精神科ケースワーカーのお仕事は非常に多岐にわたると思いますが、主な業務内容を教えてください。

主な業務は、入退院の連絡・調整、外来相談、訪問看護、グループホームの相談支援員です。

ー 精神科ケースワーカーになられたきっかけは？

もともと心理学科で、なんとなくカウンセラーを目指しており、大学3年生の時に講義の中で、PSWと言う職業があることを知りました。その時は興味がなかったのですが、PSWとして働かれている先生と出会い、仕事のお話を楽しそうにされる先生を見て、「私もそんな仕事がしたいなあ」と思ったのがきっかけです。

ー 仕事をされていてやりがいを感じるのは、どんな時ですか？

入退院に関わった方が、「久しぶりやな、かわらないよ」と外来等で笑顔話してくれた時。

ー 仕事をされていて苦労したり悩まれたりすることはどのようなことですか？

患者さんの住まれている地域によって利用できる社会資源がない時

ー 気分転換やストレス解消法は？

おいしいものを食べたり、友達と飲みに行く。休みの日に山の中のカフェに出かけたりもします♪あと、ちょこちょこ旅行にでかけるのも好きです♪

ー 今後の抱負について教えてください。

出会えてよかったと思ってもらえる人になりたいです。

ー 次の方のご紹介をお願いします。

和歌山市保健所の西山さんです。

研修等のお知らせ

多重債務対策研修(自殺対策基礎研修)

紀北会場

講師：和歌山県司法書士会 和田 佳人 氏

日時：平成23年8月26日(金)
13:30~15:30

場所：橋本保健所

紀南会場

講師：加藤 未希 氏

日時：平成23年9月15日(木)
13:30~15:30

場所：新宮保健所

うつ病治療における認知行動療法 研修

講師

沖縄県立総合精神保健福祉センター
所長 仲本 晴男 氏

日時

平成23年10月6日(木)
14:00~17:00

場所

県民交流プラザ 和歌山ビッグ愛 201会議室
和歌山市手平2丁目1-2

編集後記

精神保健福祉協会の総会の会長挨拶に東日本大震災で被災した子どもたちの作文集(文藝春秋)の紹介がありました。早速購入して、表紙を開いた途端に1枚の子どもの写真に思わず涙が出ました。作家塩野七生氏の寄稿文によれば、イタリアの週刊誌に紹介された3枚の子どもの写真のうちの1枚とのこと。

被災直後、大きなペットボトルを両手に水を運ぶ女の子が、視線を下に落としながらもキリッと口を結んで歩く姿です。記事には他の2枚とともに“面構えがいい。日本は必ず再興する”と書かれていたそうです。子どもたちの作文からも必ずこの子たちが悲しみを乗り越えて未来を築いてくれるという希望を感じました。



